展示会出展をベースとしたデザイン活動による学生教育

A RESEARCH ON EDUCATIONAL EFFECT OF DESIGN TEAM ACTIVITIES THAT BASED ON PARTICIPATING IN EXHIBITIONS

田頭　章徳　　デザイン学部プロダクトデザイン学科　助教
久慈　達也　　元・図書館　研究員
見明　暢　　デザイン学部プロダクトデザイン学科　助教
佐久間　華　　大学院芸術工学研究科　助手
馬場田　研吾　デザイン学部プロダクトデザイン学科　実習助手
松本　勇樹　　デザイン学部プロダクトデザイン学科　実習助手
金子　晋也　　デザイン学部環境・建築デザイン学科　助手

Akinori TAGASHIRA　Department of Product Design, School of Design, Assistant Professor
Tatsuya KUJI　Library, Former Researcher
Nobu MIAKE　Department of Product Design, School of Design, Assistant Professor
Hana SAKUMA　Graduate School of Arts and Design, Assistant
Kengo BABATA　Department of Product Design, School of Design, Assistant
Yuji MATSUMOTO　Department of Product Design, School of Design, Assistant
Shinya KANEKO　Department of Environmental Design, School of Design, Assistant

要旨

優秀な学生、より上を目指す学生をさらに高いレベルに引き上げる目的で立ち上げたデザインチーム DESIGN SOIL は、教員と学生がともにデザイナーとして参加し、質の高い展示会への出展を軸に活動している。DESIGN SOIL では、参加学生に学生としてではなくプロのデザイナーとして作品を発表し、展示会に臨むことを要求している。

2011 年度は、家具産業が抱える輸送コストの問題に取り組むべく、「SOUVENIRー機内持ち込みができるパッケージサイズの家具、インテリアエレメントー」をテーマとして作品制作を行い、Salone Satellite 2011 や TIDE EXHIBITION 2011 などの最高峰の選抜展に出展を果たした。展示会では、多くの批評、賞賛を得ることができた。多数の先鋭的な雑誌媒体などに掲載されたのも、純粋に作品が評価されたということであり、大きな成果である。

最高峰の展示会への出展を目標としているため、参加学生たちの作品の質は概ね向上した。展示会への参加を通して、大学のカリキュラムだけでは経験を積むことが難しい、展示会でのプレゼンテーションの仕方、取り組む姿勢を目の当たりにし、意識改革ができたことは非常に重要な成果である。

次年度以降も活動を継続し、教育の方法論の確立を目指したい。

Summary

“ DESIGN SOIL” is a design team which has launched with the aim of raising talented or ambitious students to higher level. The selected students and young teachers participate as a designer to it and the activities is based on exhibiting in high-quality exhibitions. We require the students to make a design and participate in exhibitions as not just a student, but a professional designer.

We developed theme of “SOUVENIR – furniture or interior elements which could be dismantled and stored in a package within the hand-luggage size limit allowed by airlines –“, and we have participated in top-level exhibitions ‘Salone Satellite 2011’ and ‘TIDE EXHIBITION 2011’.

A lot of high-quality magazines have published our works or activities. We can conclude that it is a great success, because our works are acclaimed by critics.

The quality of works of student members have improved by setting a goal to exhibit in top-level exhibitions. And it is a critically important result that the students could be changed their mind-set by witnessing how to presentation in exhibitions which is difficult to get experience in college classes.

1)　目的

優秀な学生、より上を目指す学生にとって、高い目標や厳しい批評は、飛躍的に伸びるきっかけとなり得る、という仮設のもと研究メンバーおよび選抜学生で組織したデザインチーム「DESIGN SOIL」。このデザインチームの Milano Salone（ミラノサローネ）を始めとした国内外の展示会出展などの活動を通じて、参加学生の成長、さらには大学全体の活性化を計るための教育方法論を見いだすことを目的とする。本稿では、2011 年度の活動を通した DESIGN SOIL の成果と、学生への教育効果をまとめ、次年以降に繋げる為の考察を行う。

2)　DESIGN SOIL について

DESIGN SOIL は、2010 年 6 月に本研究メンバーを中心に立ち上げたデザインチームである。DESIGN SOIL では、若手教員も学生メンバーとともにデザイナーとして同じテーマで作品をつくる。教員と学生がともに出展に耐えうる質の高いデザインを追い求めていく中で、指導する、されるというだけの関係を超えた効果を狙う。

DESIGN SOIL の活動は、次の 4 点において実習授業や他のプロジェクトとは一線を画す。

1. テーマに沿った構造や外観を持っていること、細部まで意匠を詰めること、実用に耐えうる強度を持たせることなどをクリアし、即商品化が可能なレベルまでデザインを詰めていく。

2. プロのデザイナーが集まる世界最高峰の展示会への出展を行う。これらの展示会は、基本的に多数の応募者の中から選ばれたデザイナーだけが出展できる選抜展であり、質の低い作品の出展は許されない。すなわち、学生はもちろん教員であっても、一定のレベルに達していない作品は出展させない。

3. 展示会場では、学生としてではなく、プロのデザイナーとして振る舞わせる。展示構成、作品解説やプレス対応などについても、プロのデザイナーと遜色ない質を要求する。

4. DESIGN SOIL は、大学名を冠せずに活動を行う。こうすることで学生として見られず、素直な批評を受ける事ができる。また、学生メンバーには大学の一プロジェクトではなく、デザインチームに所属しているという自覚と自信を促す事ができる。

3)　DESIGN SOIL の 2011 年度活動概要

今回のテーマは、「SOUVENIR～機内持ち込みができるパッケージサイズの家具、インテリアエレメント～」とした。家具産業にとって、運送コストは商品の販売価格を大きく上昇させてしまう要因となっており、国内での輸送はもちろん、輸出入においても懸案事項となる。この運送コストを低く抑え、なおかつ、気に入ったものを簡単に持ち帰る事ができるようになれば、新たなマーケットを創出できるのではないだろうか。そのための基準の一つとして飛行機の機内に手荷物として持ち込めるサイズを制限として、旅先で出会った家具をお土産として持ち帰ることができるように、という考えをテーマに込めた。

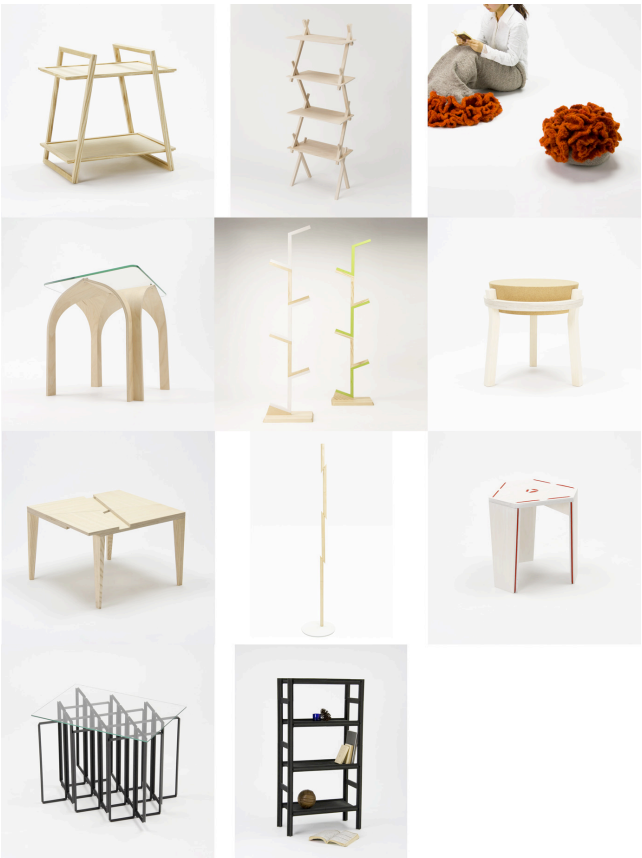

写真 1）2011 年 4 月のサローネ・サテリテで発表した”SOUVENIR”コレクションの全作品。

“SOUVERNIR”コレクションの作品を、2011年4月12日～17日にイタリア・ミラノで開催される世界最高峰のデザインの展示会、ミラノサローネの本会場内に設けられた若手デザイナーの登竜門である「Salone Satellite（サローネ・サテリテ）」において発表、展示を行った。

ミラノサローネ後、2011年10月29日～11月3日に東京で開催された「DESIGN TIDE TOKYO（デザインタイド・トーキョー）」本会場内の選抜展「TIDE EXHIBITION（タイド・エキシビション）」の出展者に選ばれ、展示を行った。

写真2）サローネ・サテリテでの展示風景。

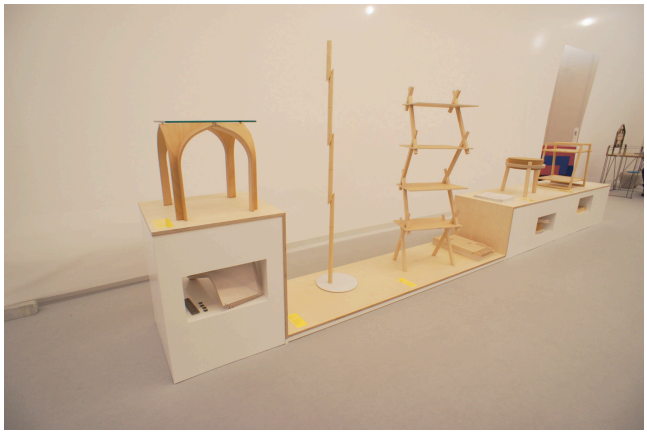

写真3）タイド・エキシビションでの展示風景。コレクションのうち、評価の高かった5作品を展示。

4）活動の外部からの評価

サローネ・サテリテとタイド・エキシビションでの展示会では、ブースに連日多数の来場者があり、口々に賞賛の言葉をもらえた。大学で出展をする際に頻繁に聞かれる「学生にしてはよくできている」「学生ががんばって出展している」ということではなく、純粋に作品のデザインに対して評価を得られた事が大変意義深い。大学名を大きく表に出さず、DESIGN SOIL の名前を前に出して活動していることの成果が現れたと言える。

これら二つの展示会を通して、下記を始めとした多数の媒体で作品およびDESIGN SOILが記事として取り上げられた。いずれも高い先見性と批評性が信頼されているメディアばかりであり、これらの媒体に学生の作品が掲載されることは異例である。本活動の成果を計る上で十分な指標であると言える。

雑誌：Domus 947（2011年5月号、イタリア、作品の紹介）、INTERNI 612（2011年6月号、イタリア、DESIGN SOILの紹介）、FRAME ISSUE 81（2011年7/8月号、オランダ、作品の紹介）、WOHNREVUE（2011年8月号および2012年1月号、スイス、作品の紹介）、商店建築（2011年12月号、日本、DESIGN SOILの紹介）、INFORM（2012年2/3月号、ドイツ、作品の紹介）

ウェブサイト：Domus Web（インタビュー）、ABITARE（インタビュー）

5）学生の成長

学科カリキュラム内の実習課題や、これまでの学生プロジェクトでは、作品の評価が「学生の作品」としての評価に留まってしまっていたが、本活動においてはプロのデザイナーと同じ批評の場に出すことを目標としたため、要求するレベルを引き上げた。これにより、学生メンバーの作品は、単なるアイデアやモックアップのレベルを脱却し、デザイン業界の識者達の注目を集め得る「製品・商品」のレベルに達するに至った。

展示会の出展を通して、学生メンバーたちの意識も大きく変わっている。展示会の場では、作品のクオリティはもちろんだが、「作品の世界観をどう見せるか」「作品をどう説明するか」というプレゼンテーションが高いレベルで要求される。出展を通して、この視点が大きく成長した。特にプロダクトデザイン学科においては、作品提案をパネル化してまとめることに関しては、実習授業等

でも指導をしており、学生たちも経験を積み重ね、一定の水準に達している。しかしながら、作品の展示に関しては、実際に自身の作品を展示する機会がほぼ卒展のみということもあり、関心が高くなく修練を積んでいるとは言いがたい状況である。

展示会に参加した学生は、口々にデザインや展示、プレゼンテーションに対する意識が大きく変わったと話している。この意識改革を引き起こした要因として、世界最高峰の展示会に作品を出展することで、自分の作品をどう見せるか、徹底的に考える機会を得られたことが大きい。さらに他の出展者の展示方法を実際に目にすることで、たくさんの生きた実例を目にする機会にもなった。また、展示会は来場者として見るのと出展者として見るのでは吸収の度合いが大きく異なると推測される。すなわち、傍観者ではなく、当事者として最高峰のデザインの展示会に身を置くことが、学生の吸収力、成長力を大幅に向上させるのではないだろうか。

DESIGN SOIL 立ち上げのもうひとつの目的である、全学的な学生の創作活動の活性化に関しては、DESIGN SOIL が活動をスタートし、注目されるようになってから、学生たちのデザインチームの立ち上げや、グループでの作品展の開催等が顕著に増加していることを鑑みると、第一歩として一定の成果を挙げることができたと判断する。

6) まとめ

デザイン業界で DESIGN SOIL が評価をされたこと、DESIGN SOIL の活動が参加した学生たちに能力の向上や意識改革を促していることは本活動の成果と言える。しかしながら、学生個人の資質によるところも大きく、未だ幅広い学生に対して応用可能な明確な方法論の確立には至っていない。次年度以降、今年度の成果をふまえて、学生教育に有効な方法論の構築に向けて DESIGN SOIL の活動と検証・研究を継続していきたい。